

2017年3月17日 全4頁

# ポピュリズム政党の失速か？左派の衰退か？

オランダ議会選はフランス大統領選の試金石となったのか？

ユーロウェイブ@欧州経済・金融市場 Vol. 85

ロンドンリサーチセンター シニアエコノミスト 菅野泰夫

## [要約]

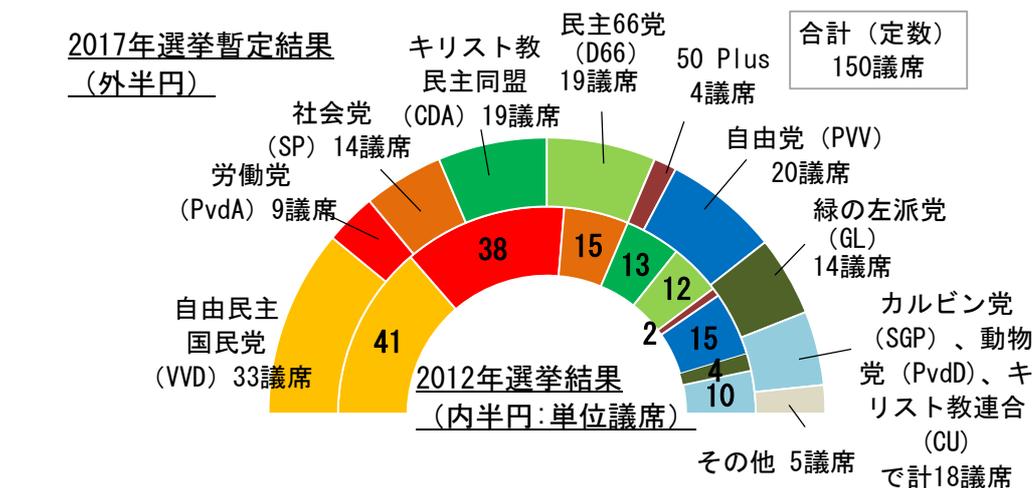
- 3月15日にオランダ議会選が実施され、注目された反イスラムを掲げるポピュリズム政党の自由党(PVV)は20議席に留まり第一党を逃した。ブレグジットや米大統領選に次ぐポピュリズムのドミノ現象が懸念されたが、選挙戦終盤に失速した自由党の支持率がそのまま反映された結果となった。
- 連立政権樹立には、少なくとも4党の参加が必要であり、政策すり合わせのための協議は相当長引く可能性が高い(連立協議の最長期間は7ヵ月)。三選を果たしたルッテ首相は右派との連立を検討しており、親EUのキリスト教民主同盟や、民主66党との協議が現実視されている。これら三党にキリスト教連合(CU)やその他の少数政党が加わることになる。
- ブレグジットや米大統領選と並列して取り上げられた今回の選挙だが、大きく異なる点もある。英米では二者択一の、勝者総取りの投票であるが、オランダは議会選、しかも比例代表制をとる。そのため過激な政党の躍進は難しく、自由党に不利に働いたとの見方もある。自由党の一部政策には共鳴するものの、反イスラムなどの人種差別的な極端な政策には抵抗があり、投票をためらった有権者層が、右傾化しポピュリズム政党の様相を呈した自由民主国民党やキリスト教民主同盟に流れたとみる向きもある。
- 今回のオランダ議会選挙は、今後続く欧州主要国での選挙におけるポピュリズム政党の動向や、有権者の投票行動を読み解く上で重要な試金石であったことには違いない。ただ自由党の敗北をポピュリズム政党の失速と決めつけることは少し早計といえる。本当の意味で、欧州におけるポピュリズムの先行指標となる選挙はフランス大統領選であり、その結果が今後のポピュリズムの方向性を左右するといえる。

### 3月15日のオランダ議会選の開票速報

3月15日にオランダ議会選が実施され、即日開票された。開票率99.2%時点の数字だが、ルッテ首相率いる自由民主国民党（VVD）が33議席と第二党以降に大きな差をつけて、第一党の座を維持すると見込まれている。注目された反イスラムを掲げるポピュリズム政党の自由党（PVV）は20議席に留まり第一党を逃した。ブレグジットや米大統領選に次ぐポピュリズムのドミノ現象が懸念されたが、選挙戦終盤に失速した自由党の支持率がそのまま反映された結果となった<sup>1</sup>。さらに第三党につけたのが、19議席のキリスト教民主同盟（CDA）で、親EUの緑の左派党（GL、14議席）、民主66党（D66、19議席）も大きく躍進している。

一方、連立パートナーであった労働党（PvdA）は、失業給付の抑制や退職年齢の引き上げ等の緊縮財政の推進に加担したとして、29議席を失う歴史的な大敗を喫した。連立政権は経済の立て直しに成功したが、労働党支持者の心はつなぎとめられなかったといえよう。

図表1 オランダ議会選（2017年）の開票議席速報（開票率99.2%）と2012年の結果の比較



|                 | 2017年議会選 | 2012年議会選 | 増減  |
|-----------------|----------|----------|-----|
| 社会党 (SP)        | 14       | 15       | -1  |
| 緑の左派党 (GL)      | 14       | 4        | +10 |
| 動物党 (PvdD)      | 5        | 2        | +3  |
| 労働党 (PvdA)      | 9        | 38       | -29 |
| 50 Plus         | 4        | 2        | +2  |
| 民主66党 (D66)     | 19       | 12       | +7  |
| キリスト教連合 (CU)    | 5        | 5        | +0  |
| キリスト教民主同盟 (CDA) | 19       | 13       | +6  |
| 自由民主国民党 (VVD)   | 33       | 41       | -8  |
| 自由党 (PVV)       | 20       | 15       | +5  |
| カルビン党 (SGP)     | 3        | 3        | +0  |
| その他             | 5        | 0        | +5  |
| 合計(定数)          | 150      | 150      |     |

(出所) オランダ議会より大和総研作成

<sup>1</sup> また足元で、欧州ポピュリズム政党（ドイツのための選択肢やフランスの国民戦線）の支持率が急上昇しているわけでもない。

この結果、自由民主国民党、労働党、キリスト教民主同盟の主要 3 政党の支持率合計は 1980 年代の 8 割以上から約 4 割へと半減している。政党支持の細分化が鮮明となった結果から、連立交渉の難航が予想される。連立政権樹立には、少なくとも 4 党の参加が必要であり、政策すり合わせのための協議は相当長引く可能性が高い（連立協議の最長期間は 7 ヶ月）。三選を果たしたルッテ首相は右派との連立を検討しており、親 EU のキリスト教民主同盟や、民主 66 党との協議が確実視されている。これら三党にキリスト教連合（CU）やその他の少数政党が加わることになろう。ルッテ首相は選挙前に自由党との連立を明確に否定していたため、第二党である自由党の連立入りの可能性はゼロに近い。また、連立のジュニアパートナーとしての悲哀を味わった労働党も、連立には消極的となろう。

### ポピュリズムの失速？ 左派の衰退？ フランス大統領選の試金石となったか？

ルッテ首相は、今回の選挙にあたり現状維持とポピュリズムの対決という構図を描いてみせた。さらに、直前に起きたトルコの外相入国拒否<sup>2</sup>を巡るオランダとトルコとの激しい外交論争が、強烈な追い風となったといわれている。議会選直前に起きたトルコとのつばぜり合いで、厳格なスタンスを見せたことが有権者には好意的に受け止められた。自国の利益優先を強調し、前線でオランダを防御するのは与党の自分たちだと有権者に印象づけられたことでポピュリズムの御株を奪ったとされる。さらに選挙戦で、キリスト教民主同盟とともに、人種やアイデンティティ、愛国心などポピュリズムの主張を取り込み、ウィルダース党首率いる自由党かと思いがうような右傾化を見せたことも勝因とされる。ルッテ首相は、新聞に全面広告を出して、オランダ社会への統合を拒む移民は出ていくべきと主張した。キリスト教民主同盟も学校での国歌斉唱の義務化などリベラルで知られるオランダでは過激ともとれる政策も目立った。ルッテ首相は議会選の結果を「誤ったポピュリズムに No をつけた」と評した。しかし、終盤はオランダの EU 離脱（ネグジット）や、ユーロ離脱などの過激な主張をトーンダウンさせたウィルダース党首と比べれば、どちらがポピュリスト政党か分からなくなったといっても過言ではない。また今回の選挙で最も留意すべき問題は、労働党の大敗で見られたように、欧州で広く見られる中道左派の低迷が顕在化したことであろう。いずれにしろ、今後のオランダ政治の右傾化は避けられない様相を呈している。

またブレグジットや米大統領選と並列して取り上げられた今回の選挙だが、大きく異なる点もある。英米では二者択一の、勝者総取りの投票であるが、オランダは議会選、しかも比例代表制である。そのため過激な政党の躍進は難しく、自由党に不利に働いたとの見方もある。自由党の一部政策には共鳴するものの、反イスラムなどの人種差別的な極端な政策には抵抗があり、投票をためらった有権者層が、右傾化しポピュリズム政党の様相を呈した自由民主国民党やキリスト教民主同盟に流れたとみる向きもある。一方、フランスは、極右のルペン国民戦線党首と対立候補の二択となる可能性もあり、フランス大統領選の決選投票には第三の道がない

<sup>2</sup> オランダで政治集会を開こうとしたトルコの外相が、治安上の理由でオランダへの入国を拒否されたことについて、トルコのエルドアン大統領とルッテ首相が非難の応酬をした。オランダとトルコが非難合戦を繰り広げたことを契機に、ロッテルダムでのデモが激化、警察が騎馬隊や放水などの武力を使用せざるを得ないところまでエスカレートした。

ため、浮動層は究極の選択を余儀なくされるだろう。特に5月7日の決選投票でルペン党首と中道派のマクロン元経済相の争いになった場合、右派の有権者の多くは、マクロン元経済相に票を投じがたく、消去法でルペン党首を選択せざるを得ない状態に追い込まれる可能性は否定できない。

今回のオランダ議会選挙は、今後続く欧州主要国での選挙におけるポピュリズム政党の動向や、有権者の投票行動を読み解く上で重要な試金石であったことには違いない。ただ自由党の敗北をポピュリズム政党の失速と決めつけることは少し早計といえる。本当の意味で、欧州におけるポピュリズムの先行指標となる選挙はフランス大統領選であり、その結果が今後のポピュリズムの方向性を左右するといえる。

(了)